

# 会 告

社団法人 土 木 学 会

行事案内	月 日	行 事 名	場 所	備 考
本 部	1月31日(火)	第1回土木計画学シンポジウム	土木学会	12号6ページ参照
	2月3日(金) ~4日(土)	第11回水理講演会	同	12号7 〃
	5月26日(金)	第53回通常総会	広島市	12号5 〃
	5月27日(土)	総合講演会	同	12号5 〃
	5月27日(土) ~28日(日)	学術講演会	同	12号5 〃
	5月27日(土)	懇親会	同	12号5 〃
	5月29日(月) ~30日(火)	見学会	中四地区	12号5 〃
	北海道支部	12月16日(金)	第3回講演会	札幌市
2月22日(水)		研究発表会	同	12号10 〃
3月8日(水)		講習会	同	12号10 〃
東北支部	2月21日(火)	研究発表会	仙台市	12号10 〃
関西支部	1月18日(水)	海外事情講演会	大阪市	12号11 〃
	1月18日(水)	会員懇親会	同	12号11 〃
	1月24日(火)	大阪都市計画講演会	同	12号11 〃
	2月21日(火) ~22日(水)	耐震設計に関する講習会	同	12号11 〃
そ の 他	1月26日(木) ~27日(金)	高分子材料の強度に関する講習会	大阪市	12号8 〃
	2月3日(金)	シエル構造の発達についての講演会	東京	12号12 〃
	2月4日(土)	水文学に関するシンポジウム	土木学会	12号8 〃
お知らせ	■昭和41年度土木学会賞候補ならびに吉田研究奨励金候補の募集について			12号2 〃
	■第13回国際道路会議			12号7 〃
	■第4回理工学における同位元素研究発表会論文募集			12号9 〃
	■日本建築学会賞について			12号9 〃
	■昭和42年度科学研究費補助金の公募について			12号49 〃
■第8回藤原賞受賞候補募集について			12号49 〃	

## 研究ノート欄の設置について

論文集編集委員会では、土木工学の研究・技術の進歩・発展および内容の多様化にともない論文集第135号より研究ノート欄を新設することになりましたのでご利用下さい。

本欄の原稿は、土木工学に関する理論・設計・計画などを記述したもの、将来を見とおした技術哲学的な意見、土木学会論文集に既発表論文の補足および発展部分等あつかったものを原則とします。

詳細については論文集編集委員会へお問合せ下さい。

## 昭和 41 年度土木学会賞候補ならびに吉田研究奨励金候補の募集

昭和 41 年 10 月

社団法人 土 木 学 会

本年度土木学会賞候補の募集ならびに吉田研究奨励金候補の募集をいたします。推薦または応募されますようお願いいたします。

(注) 昨年度から表彰制度の改正により、土木学会賞として功績賞、技術賞、論文賞、吉田賞の4賞を、さらに本年度から田中賞を加えて5賞の表彰を行うことになりました。ただし、功績賞については公募いたしませんので別途資格者に推薦方法を依頼します。

### ◎土木学会賞候補募集要項

種別	項目	技 術 賞	論 文 賞	吉 田 賞	田 中 賞
候補対象		土木事業の計画、施工等に関し、土木技術の進展に顕著な貢献をなした画期的な総合的業績、もしくは一部の業績 (例) ○○ 事業の総合技術 △△ 事業の施工 □□ に関する考察	(論文賞) 土木学会誌、論文集その他の刊行物に研究、計画、設計、施工、考察などに関する論文を発表し、これが土木工学における学術、技術の進歩発展に独創的な業績をあげ顕著な貢献をなしたものを (論文奨励賞) 土木学会誌、論文集、その他刊行物に研究、計画、設計、施工、考察などに関する論文を発表し、これが土木工学における学術、技術の進歩発展に寄与し、独創性と将来性に富むもので受賞者の年齢が原則として満35才未満であるもの	コンクリートおよび鉄筋コンクリートならびにこれらに関連する優秀な研究工事等を行なったと認められたものに授与し、その業績が土木学会の刊行物、コンクリートに関する学・協会の刊行物、その他これに類似の刊行物に研究論文、設計、施工、考察などの報告、またはそれらの要旨が登載されたものの中から選ばれる。	(論文) 橋梁およびその他の構造物に関する優秀な研究成果を対象とし公開されたものの中から選ばれる。 (作品) 橋梁およびそれに関連する構造物で、計画、設計、施工、美観などの面においてすぐれた特色を有すると認められる物を対象とし、つぎの各グループについて選考する。 (1) 長大橋梁 (2) 中小橋梁 (3) その他特殊橋梁および橋梁に関連するもの
受賞候補者	個人または団体		本会会員に限る。 過去の土木賞受賞者は既受賞者とし、重ねて同一の賞の候補者となることはできない。共著者(共同研究者)の中に非会員、既受賞者、その他受賞候補者になることができないものが含まれていることはさしつかえないが受賞候補者に加えることはできない。	日本に国籍を有する個人または研究グループ。ただし、原則としてすでに吉田賞を授与されたものを除く。	(論文) 個人またはその複数 (作品) 作品自身を対象とするもので受賞候補者はない。
候補の範囲	昭和40年1月1日から昭和41年12月31日までの間にできた業績であって日本国内において実施されたものに限る。		昭和40年1月1日から昭和41年12月31日までの間に発表されたもので、土木学会誌、論文集、その他土木学会の刊行物に登載されたもの、その他、他学・協会・大学・官公庁・会社などの刊行物に登載されたものなど、内容審査に必要な資料の整っているものに限る。	(論文) 論文賞、吉田賞に同じ。 (作品) 昭和40年1月1日から昭和41年12月31日までの間に完成した橋梁およびそれに関連する構造物で、日本人により設計、施工、計画されたものに限る。	
推薦(応募)の方法	会員、支部、土木事業に関連する学・協会、法人の推薦により別に定める推薦者、候補業績の要旨各1部を提出する。 なお、当該業績に関する参考資料を添付することを妨げない。  (推薦書および関係用紙は土木学会本部または各支部に準備してありますから必ずその用紙を使用して下さい)	会員、支部、その他一般の推薦または会員自らの応募により、別に定める様式による推薦書1部を提出する。候補論文が土木学会誌、論文集以外に発表されている場合は推薦書に添えて本文および審査に必要な資料6部と別に定める様式による候補論文要旨1部を提出しなければならない。	会員、支部、その他一般の推薦により別に定める様式による推薦書1部を提出する。土木学会誌、論文集以外に発表された候補論文は推薦書に添えて本文および審査に必要な資料30部を提出しなければならない。	(論文) 会員、支部、その他一般の推薦により、別に定める様式による推薦書1部を提出する。候補論文が土木学会誌、論文集以外に発表された場合は推薦書に添えて審査に必要な資料20部を提出しなければならない。 (作品) 会員、支部、その他一般の推薦調者2部を提出する。	
審査	表彰委員会において行う。ただし、審査の途上において推薦者またはその代理人に出席を求め説明をうけることがある。	論文賞選考委員会において行う。なお、必要あるときはさらに資料30部の追加提出を求められることがある。	吉田賞選考委員会において行う。	田中賞選考委員会において行う。なお、必要あるときはさらに関係資料の提出を求められることがある。	
表彰	第53回通常総会において行い、賞状、賞牌を贈る。	第53回通常総会において賞牌、賞状、賞金を贈る。	第53回通常総会において賞牌、賞状、賞金を贈る。	第53回通常総会において表彰する。	
締切期	昭和 42 年 1 月 20 日				
提出先	東京都新宿区四谷1丁目 土木学会表彰委員会	土木学会論文賞選考委員会	土木学会吉田賞選考委員会	土木学会田中賞選考委員会	

土木学会表彰規程

(総 則)

第1条 土木学会規則第34条による表彰はこの規程による。

(賞の種類)

第2条 表彰は次の土木学会賞(仮称)を授与して行う。

1. 功績賞 2. 技術賞 3. 論文賞 4. 吉田賞 5. 田中賞

(功績賞)

第3条 功績賞は土木学会の会員であって、土木工学の進歩、土木事業の発達、土木学会の運営に顕著な貢献をなしたと認められたものに授与する。

(技術賞)

第4条 技術賞は土木事業の計画、設計、施工等に関し、土木技術の進展に顕著な貢献をなしたと認められた画期的な業績に授与する。

(論文賞)

第5条 論文賞は本会会員であって、土木学会誌、論文集、その他の刊行物に研究、計画、施工、考案などに関する論文を発表し、これが土木工学における学術、技術の進歩発展に独創的な業績をあげ、顕著な貢献をなしたと認められたものに授与する。

- (2) 論文奨励賞は本会会員であって、土木学会誌、論文集、その他の刊行物に研究、計画、設計、施工、考案などに関する論文を発表し、これが土木工学における学術、技術に関する進歩発展に寄与し、独創性と将来性に富むものと認められ、受賞者の年齢が原則として満35才未満であるものに授与する。

(吉田賞)

第6条 吉田賞はコンクリートおよび鉄筋コンクリートならびにこれに関連する優秀な研究、工事等を行ったと認められるものに授与し、その業績が土木学会の刊行物、コンクリートおよび鉄筋コンクリートに関する学・協会の刊行物、その他これに類似の刊行物に研究論文、設計、施工、考案等の報告またはそれらの要旨が掲載されたものの中から選ばれる。

(田中賞)

第7条 田中賞は次の論文ならびに作品に授与する。

(1) 論文

橋梁およびその他の構造物に関する優秀な研究成果を対象とし、公刊されたものの中から選ばれる。

(2) 作品

橋梁およびそれに関連する構造物で、計画、設計、施工、美観などの面においてすぐれた特色を有すと認められる物を対象とし、長大橋梁、中小橋梁、その他特殊橋梁および橋梁に関するもののグループ別選ばれる。

(委員会)

第8条 土木学会賞を審議決定するため次の委員会をおく。

1. 表彰委員会
2. 論文賞選考委員会
3. 吉田賞選考委員会
4. 田中賞選考委員会
- (2) 表彰委員会は功績賞および技術賞の受賞候補の選考をなし、論文賞、吉田賞および田中賞選考委員会の具申を受けて、必要に応じて各賞間の調整を行い、土木学会賞受賞候補を決定する。
- (3) 論文賞選考委員会は論文賞候補の選考を行う。
- (4) 吉田賞選考委員会は吉田賞候補の選考を行う。
- (5) 田中賞選考委員会は田中賞候補の選考を行う。
- (6) 前記各委員会の構成、運営その他については別に内規で定める。

(表彰の時間、方法)

第9条 表彰は原則として毎年1回通常総会において賞牌、賞状等を授与して行う。

◎吉田研究奨励金候補募集要項

1. 候補対象

コンクリートおよび鉄筋コンクリートならびにこれらに関連する研究に従事するもので、特に独創性と将来性に富むと認められたもの。ただし、原則として同一研究計画に対してすでに吉田研究奨励金を授与されたものを除く。

本年度より従来の自由課題に加えて要望課題についても募集することになりましたのでふるってご応募下さい。

(I) 要望課題

- (1) 鉄筋コンクリート部材の極限設計の研究
- (2) 高張力異形鉄筋の有効な使用方法の研究
- (3) 軽量コンクリートの研究
- (4) 砕石コンクリートの研究

(II) 自由課題

従来どおり

2. 募集の方法

日本に国籍を有する個人または研究グループの応募による。

3. 研究成果の報告

研究成果は文書により吉田賞選考委員会に提出するほか昭和43年5月下旬施行の第23回年次学術講演会において吉田研究奨励金を授与された研究であることを明らかにして発表しなければならない。

4. 応募の方法

一定の様式による研究計画1部を提出する。

(計画書の用紙は土木学会本部および各支部に準備してありますから、必ずその用紙を使用して下さい)

5. 審査

吉田賞選考委員会において行う。

6. 締切期日

昭和42年1月20日

7. 提出先

東京都新宿区四谷1丁目 土木学会吉田賞選考委員会

◎昨年度の土木学会賞受賞者(敬称略)

功 績 賞	内 海 清 温	土木工学ならびに土木事業の進展
	鈴 木 雅 次	同 上
技 術 賞	日本国有鉄道	東海道新幹線の建設
	関西電力株式会社	黒部川第四発電所の建設
論 文 賞	林 泰 造	1. THRUSTS EXERTED UPON COMPOSITE-TYPE BREAKWATERS BY THE ACTION OF BRAKING WAVES.
		2. VIRTUAP MASS AND THE DAMPING FACTOR OF THE BREAKWATER DURING ROCKING, AND THE MODIFICATION BY THEIR EFFECT OF THE EXPRESSION OF THE THRUSTS EXERTED UPON BREAKAWATERS BYTHE ACTIONOF BREAKING WAVES.
	久 保 浩 一	1. 垂直控えグイの横抵抗
		2. 杭の横抵抗の新しい計算法
論 文 奨 励 賞	石 原 研 而	1. 非可逆的熱力学にもとづく熱の影響を考慮した圧密理論
		2. 粘弾性物質の変形係数におよぼす荷重速度の影響
	中 村 英 夫	航空写真と電子計算機による道路路線の設計法
	土 岐 憲 三	VIBRATIONAL CHARACTERISTICS AND ASEISMIC DESIGN OF SUB-MERGED BRIDGE PIERS.
吉 田 賞	赤 塚 雄 三	港湾工事におけるプレバックドコンクリートの施工管理に関する基礎研究

## 第53回通常総会および第22回年次学術講演会

昭和42年度通常総会および年次学術講演会は、つぎの日程で広島市において開催いたします。つぎの要領をご覧のうへ、1967年1月15日(日)までに学術講演係(広島市千田町3丁目8の2 広島大学工学部土木教室 網干寿夫教授 電話 広島 41-1161 内線 71)あて、期日を守って直接お申込み下さい。

総会、懇親会、見学会、講演概要などの申込み方法は学会誌3月号でお知らせいたします。

### ○行事日程

- |           |                          |                     |             |
|-----------|--------------------------|---------------------|-------------|
| 1. 通常総会:  | 1967年5月26日(金)            | 14時~17時             | 於 広島銀行本店会議室 |
| 2. 総合講演会: | "                        | 5月27日(土) 9時~12時     | 於 見真講堂      |
| 3. 学術講演会: | "                        | 5月27日(土) 13時~17時    | 於 広大教養部     |
|           | "                        | 5月28日(日) 9時~17時     | "           |
| 3. 懇親会:   | "                        | 5月27日(土) 18時~19時30分 | 羽田別荘        |
| 5. 見学会:   |                          |                     |             |
|           | (A) 広島近郊コース(市内観光~宮島)     | 5月29日(月)(5時間)       |             |
|           | (B) 出雲路コース(玉造温泉泊, 米子駅解散) | 5月29日(月)~30日(火)     |             |
|           | (C) 四国コース(高松泊, 高知駅解散)    | "                   |             |

### ○土木学会第22回年次学術講演会実施要領

#### I. 講演要領

- ① 研究発表には、各部門ともできる限り、一般報告の方式を採用し、やむを得ない場合に限り著者自らによる個人発表の方式を採用する。
- ② 一般報告の方式は、同じ種別の論文数編ずつを、学会で委嘱した一般報告者が総括して報告し、その後で質疑討論を行なう。この場合の応答には、各著者が自らこれに当り、場合により著者の補足説明を認められる。
- ③ 一般報告に対する論文は学会で決定し、学会誌3月号に掲載する。
- ④ 講演概要の記述にあたっては、一般報告者が、その概要にもとづいて報告することを予想し、必ずそれぞれの研究の考え方と結論をわかりやすく書くこと。
- ⑤ 個人発表の方式では、講演時間を10分(交代時間を含む)とし、数編の講演後にまとめて質疑討論の時間を設ける。

#### II. 講演申込要領

- ① 講演者の資格: 講演者の資格は土木学会会員に限りません。ただし連名者は非会員でも差し支えない。
- ② 講演申込方法: 講演希望者は定められた申込カード(4枚複写)に所定の事項を明記し、必ず200字程度のあらましを書き加え、1月15日(火)までに学術講演係(広島市千田町3丁目8の2 広島大学工学部土木教室 網干寿夫教授 電話 広島 41-1161 内線 71)あて直接申込みこと。
- ③ 申込カードは各支部に準備しているから各自所属支部へ請求されたい。
- ④ 講演内容は、原則として未発表のもので、1人1題に限る。
- ⑤ 講演部門は、つぎの4部門に分ける。ただし都合により本人の了承を得て希望部門を変えることがある。
  - 第1部門: 応用力学, 構造力学, 橋梁等
  - 第2部門: 水理, 水文学, 河川, 港湾, 海岸, 発電水力, 衛生工学等
  - 第3部門: 土質力学, 基礎工学, 土木機械, 施工等
  - 第4部門: 鉄道, 道路, コンクリートおよび鉄筋コンクリート, 土木材料, 都市計画, 空港, 測量等
- ⑥ 原稿提出要領:
  - 講演申込者はつぎの要領で講演概要の原稿を期日を守って提出すること。
    - A. 講演概要集は、原稿をそのまま縮写して、オフセット印刷とするので、定められた原稿用紙を用いること。

- B. 原稿用紙は執筆要領とともに、各支部に準備しているから、所属支部へ請求すること。
- C. 原稿は、2月28日(火)までに学術講演係(広島市千田町3丁目8の2 広島大学工学部土木教室 網干寿夫教授 電話 広島 41-1161 内線 71)あて、期日を堅く守って直送すること。
- D. 原稿の長さは、原則として2ページとし、超過する場合は4ページとする。4ページでも超過料金は不要です。
- E. 講演概要集：司会者および一般報告者以外は有料とする。
- F. 講演概要の別刷：講演者(○印)には30部を無料贈呈し、超過部数の希望には応じません。

III. 学術講演の発表申込み者へのお願い

- ① 年々発表件数が増加し、当番の講演会係では、プロ編成、概要原稿の編集、同印刷発送など一連の作業進行上の期間が最小限にぎり詰められているので、つぎに再掲する締切期日はくれぐれもお守り下さるよう、係より特にお願いたします。
  - (A) 学術講演申込カード：必着日 1967年1月15日(日)
  - (B) 同 講演概要の原稿： 同 2月28日(火)
- ② この締切期日が過ぎてから到着のものは、作業進行上全く余裕がないので、残念ながら受理できませんからあらかじめご了承下さい。

第1回土木計画学シンポジウム開催

◀ 1月31日(火) ▶

土木学会土木計画研究委員会は1966年9月に発足した新しい委員会です。その事業の一つとして土木計画のあるべき姿とその問題点を検討し、あわせて計画に関する調査、研究等を推進するため、下記により第1回シンポジウムを開催することになりました。今回はまず土木計画のあり方と基礎理念に関する討論を中心とし、上記委員会において講演者を選び講演の公募はいたしません。土木技術者の活躍範囲において土木計画の分野がきわめて重要な事情にかんがみ、会員諸氏にはふるってご参加ご討論下さるようご案内申し上げます。

- 1. 期 日：1967年1月31日(火)
- 2. 会 場：土木学会土木図書館講堂
- 3. 参加費：会員1500円(講演概要代をふくむ)
- 4. 申込方法：参加費を添えて1月15日までに土木学会編集課あてお申込み下さい。なお定員がありますので満員の際はお断わりすることがあります。

5. プログラム

9.30~9.40	開会あいさつ —<総論>—	(司会 京都大学教授 米谷 栄二)	土木学会土木計画学研究委員会 委員長 鈴木 雅 次
9.40~10.10	土木計画と土木技術		東京大学教授 八十島 義之助
10.10~10.40	土木計画と公共投資 —<各論>—		経済企画庁総合開発局長 加納 治 郎
10.40~12.00	土木計画手法に関連して 土木計画とOR 計画基礎数理 地域計画に関する手法 施工管理計画	(司会 名古屋工業大学教授 渡辺 新三)	京都大学助教授 吉川 和 広 京都大学教授 佐佐木 綱 北海道大学教授 五十嵐 日出夫 鹿島建設土木企画部 佐用 泰 司
12.00~13.00	昼 食		
13.00~13.40	総合計画に関連して 国土・地域計画 都市計画	(司会 東京大学教授 井上 孝)	日本大学助教授 川北 米 良 建設省計画局地域計画課長 秀島 敏 彦
13.40~15.00	産業開発と社会開発に関連して 水資源計画 防災計画 環境衛生計画 観光計画	(司会 東京大学助教授 高橋 裕)	建設省関東地建河川部長 西川 喬 京都大学教授 石原 安 雄 京都大学教授 山本 剛 夫 東京工業大学助教授 鈴木 忠 義
15.00~15.10	休 憩		

15.10~16.50	交通計画に関連して 地域計画と交通 港湾・空港計画 道路計画 都市交通計画 鉄道計画	(司会 北海道大学教授 小川 博三)	九州大学教授 内 田 一 郎 京都大学教授 長 尾 義 三 名古屋大学教授 毛 利 正 光 東北大学教授 多 谷 虎 男 京都大学教授 天 野 光 三 日本大学名誉教授 鈴 木 雅 次 京都大学教授 長 尾 義 三 京都大学教授 石 原 藤 次 郎
16.50~17.20	所感(土木計画と私)		
17.20~17.40	“土木計画のあり方と基礎理念”に関するまとめ		
17.40~17.50	閉会のあいさつ		

注) 各講演者の論題は多少変更されることがあります。

## 第 11 回 水 理 講 演 会

◀ 2 月 3 日 (金) ~ 4 日 (土) ▶

第 11 回水理講演会を下記により開催いたしますので多数ご参加下さるようご案内いたします。

1. 会 場：土木学会土木図書館講堂
2. 主 催：土木学会水理委員会
3. プログラム：第 1 日・2 月 3 日 (金)

10.00~10.05	開会あいさつ	土木学会水理委員会委員長 石 原 藤次郎
10.05~10.25	① Sand Wave に関する研究—砂堆の形状について—	建設省土木研究所 石 崎 勝 義
10.25~10.45	② Sand Wave のスペクトル特性について	京都大学防災研究所 声田和男・○田中祐一郎
10.45~11.05	③ 移動床形態の区分とくに砂堆の形成限界について	東京大学生産技術研究所 井口昌平・○鮎川 登
11.05~11.25	④ 蛇行発生に関する微小振動の考察 討 議 ①~④	名古屋大学工学部 足 立 昭 平
12.05~13.20	昼 食・休 憩	
13.20~13.40	⑤ 複断面水路における平衡縦断形状について	建設省土木研究所 須 賀 堯 之
13.40~14.00	⑥ 大ダム下流の河床低下 岐阜大学工学部	○河村二郎・コロラド州立大学 D.C. サイモンズ
14.00~14.20	⑦ 河口砂州の崩壊について	建設省土木研究所 土 屋 昭 彦
14.20~14.40	⑧ 掃流砂礫によって生じる抵抗について	京都大学防災研究所 矢野勝正・京都大学工業教員養成所 ○大同淳之
14.40~15.10	討 議 ⑤~⑧	
15.10~15.30	⑨ ザーシングクの安定性に対する既往の研究成果について(3)	九州電力KK 村 瀬 次 男
15.30~15.40	討 議 ⑨	

### 第 2 日・2 月 4 日 (土)

9.30~ 9.50	⑩ 超音波流速計による河川乱流の測定	京都大学防災研究所 石原安雄・余越正一郎
9.50~10.10	⑪ 自由落下水の分散	電力中央研究所 坂 本 竜 雄
10.10~10.30	⑫ 鉛直上向き噴流に関する実験的研究	大阪大学工学部 室田 明・○村岡浩爾・中山茂雄
10.30~10.50	⑬ 自由水面上における固体粒子の拡散について	京都大学工学部 岩佐義明・○今本博健・井上和也・白砂孝雄
10.50~11.10	⑭ 水面上に水平に放出される温水の拡散について	中央大学理工学部 ○林 泰造・首藤伸夫・川上克巳
11.10~11.30	⑮ 密度流の流速分布に関する実験	電力中央研究所 四方 浩・中井直行・日野幹雄
11.30~12.00	討 議 ⑩~⑮	

◎講演集：参加者の便宜のため当日会場で頒布いたしますから、ご必要の方はお買求め下さい (B 5 判 100 ページ程度、価格未定)

## 第 13 回 国 際 道 路 会 議 開 催

(XIII th World Road Congress)

1967 年 11 月 5 日~11 月 11 日まで第 13 回国際道路会議が東京プリンスホテルで開催されます。第 1 議題 一般的问题, 第 2 議題 道路計画, 土工, 第 3 議題 たわみ性舗装, 第 4 議題 剛性舗装, 第 5 議題 交通との関係における道路の構造規格, 第 6 議題 都市道路, 第 7 議題 経済的問題の 7 テーマを協議するほか, 見学会, レセプションなど多彩なプログラムが用意されています。外国人約 600 名, 日本人約 700 名の参加が見込まれています。参加希望者はパンフレットが準備してありますので下記へお問合わせ下さい。

記

第 13 回国際道路会議日本実行委員会 (東京都千代田区三年町 1 日本道路協会内・電 581—2211)

## 水文学に関するシンポジウム

◀ 2月4日(土) ▶

日本学術会議水特別委員会および災害科学総合研究班河川分科会主催、土木学会水理委員会後援のもとに水文学に関するシンポジウムを下記により開催いたしますので多数ご参加下さるようご案内いたします。

1. 日 時：1967年2月4日(土) 13.00~17.00

2. 会 場：土木学会土木図書館講堂

3. プログラム：

13.00~13.05	挨拶	京都大学教授	石原 藤次郎
13.05~13.20	① 水文学における二、三の新知見 ●河川流出の推算 ●流出過程におよぼす河道の効果 ●中間流出と山崩壊 ●流量の統計的予測	北海道大学教授 京都大学助教授 岩手大学教授 京都大学教授	岸 力 高 棹 琢馬 武田 進平 角 屋 睦
15.20~15.30	休 憩		
15.30~16.15	② 水文学におけるRIの利用	建設省土木研究所化学研究室長	近 藤 紀
16.15~17.00	③ 水文学における航空写真の利用	東京大学教授	丸 安 隆 和

◎講演概要は印刷のうえ、当日参加者に配布いたします。

## 高分子材料の強度に関する講習会

◀ 1月26日(木)~27日(金) ▶

- 共 催：日本材料学会・日本材料学会関西支部・日本材料学会強化プラスチック部門委員会
- 協 賛：日本機械学会・日本建築学会・日本化学会・日本ゴム協会・日本航空学会・日本合板協会・造船協会・土木学会・化学工学協会・強化プラスチック協会・近畿化学工業会・合成樹脂工業会
- 主 旨：プラスチックは機械装置の構造用材料として最近目ざましい発展をとげつつあるが、一方プラスチック材料の強度上の諸問題が数多くあり、これらの解決なしには安全使用はもちろん、将来の発展を期することができず、プラスチックの強度問題の解決は焦眉の急を要するものと考えられます。このときに当り「強度」に焦点を絞り、斯界の各専門家に十分な解説をお願いし、さらに質疑応答によって理解を深めていただくよう計画しました。
- 会 場：大阪科学技術センター 401号室 大阪市西区靉1丁目118 電話 443-5321 (地下鉄3号線、信濃橋下車 うつぼ公園東北角)
- 会 費：正会員 4000円 非会員 5000円 学生 2000円 (いずれも教材1部含む)
- 教 材：テキストのみご希望の方は1部 1000円
- 定 員：200名 (定員なり次第締切る)
- 申込締切日：1967年1月20日
- 申込方法：随意、用紙に氏名、所属、連絡先等を明記し、会費を添えて、日本材料学会講習会係(京都市左京区吉田泉殿町1の10(電話 76-5321) 振替口座 京都 26625 番)へお申込み下さい。
- その他：協賛学協会会員は正会員値とします。受講者には参加証を送りますから当日ご持参下さい。参加費は払い戻しいたしません。
- 題目および講師

第1日

9.30~10.50	開会のあいさつ	日本材料学会事業委員長	河 合 弘 迪
10.50~12.00	高分子材料の破壊の粘弾性の展望	信州大学	佐 藤 良 泰
13.00~14.10	エラストマーの破壊の理論	京都大学	川 端 季 雄
14.10~15.20	プラスチックの長時間強度とクレージング・クラック問題	同志社大学	奥 田 聡
15.20~16.30	プラスチックの引裂破壊現象	富士写真フィルム	上 野 弥 弥
16.30~17.00	成形加工よりみたプラスチック成形品の強度	東洋レーヨン	井 上 正 一
	自由討論 司会 奥田 聡		

第2日

9.30~11.00	強化プラスチックの強度理論と構造設計の問題点	東京大学	林 毅
11.00~12.30	強化プラスチックの破壊機構(静的および疲れ強さについて)	大阪市立大学	藤 井 太 一
13.30~14.30	ロービングクロス強化プラスチック積層板の強度と設計	大阪市立大学	平 井 恒 夫
14.30~15.30	構造物に用いられる強化プラスチックの設計方法	川崎車輛	鳩 貝 康 夫
15.30~16.30	フィラメント・ワインディングによる成形と強度(仮題)	日東紡	田 部 井 清
16.30~17.00	自由討論 司会 西山卯二郎		
	閉会あいさつ 日本材料学会強化プラスチック部門	委員長	西山 卯二郎



## 第4回 理工学における同位元素研究発表会——論文募集——

関係諸学・協会の共同主催で、標記の研究発表会を開催いたします。この研究発表会の目的は、異なった専門分野の研究者が一堂に会し、同位元素および放射線の利用の技術を中心とした研究、およびその技術の基礎となる研究の発表と討論を行ない、各専門分野間の知識と技術の交流を図ろうとするものであります。会員各位におかれてはふるってご応募、ご参加下さることを希望いたします。

1. 期 日：1967年4月18日(火)～20日(木)
2. 会 場：東京大学
3. 共同主催者：学連 43 学協会
4. 発表論文：

(1) 内容 それぞれの研究分野において、その専門的成果をうるにいたった同位元素および放射線の利用の技術に重点をおいた論文と、同位元素、放射線の利用の基礎となる研究論文とします。なお、えられた専門的成果の報告も差しつかえありません。

研究の内容には、少なくとも一部に未発表の部分が含まれていることを必要とします。

(2) 発表申込区分 プログラム編成の便宜上、つぎのように申込区分を設けます。

- ① 放射線照射のための線源および装置に関するもの、② 放射線化学その他照射効果に関するもの、③ ラジオグラフィに関するもの(装置に関するものを含む)、④ オートラジオグラフィに関するもの、⑤ 放射線利用計測機器の利用と開発に関するもの、⑥ 放射線利用機器に関するもの(エネルギー的利用、発光塗料なども含む)、⑦ トレーサー的利用に関するもの(安定同位元素も含む)、⑧ 分析に関するもの(安定同位元素も含む)、⑨ 製造、分離、精製に関するもの(安定同位元素も含む)、⑩ 化合物の合成、標識化に関するもの(安定同位元素も含む)、⑪ 放射線測定法および測定器に関するもの、⑫ 安全取扱いに関するもの(遮蔽、施設、設備、器具、健康管理なども含む)、⑬ 廃棄物処理、汚染除去に関するもの、⑭ その他。

(3) 発表時間 1件の発表 15分以内の予定。

5. 発表者の資格：発表申込者が所属する主催学・協会の年会(大会)等の規定または慣例にしたがう。
6. 発表申込：所定の申込書(1件1通)によりお申込み下さい。所定の申込書は、下記にて請求して下さい。  
東京都文京区本駒込二丁目28番45号(理研内) 日本放射性同位元素協会内  
理工学における同位元素研究発表会運営委員会 電話 東京 946-7111(代表)
7. 発表申込締切：1967年1月31日(火) 必着
8. 講演要旨：講演要旨集を発行します。発表申込みがあり次第、所定の原稿用紙(1200字程度)をお送りします。
9. 講演要旨原稿締切：1967年2月28日(火) 必着
10. その他：

- (1) この研究発表会の運営は、主催学・協会より選出された各1名の委員で構成された運営委員会において行ないます。
- (2) フルペーパーの報文集は特に発行しません。

なお、日本放射線同位元素協会の学術機関誌“RADIOISOTOPES”にはこの研究発表会の発表論文にかぎり、同協会会員外でも投稿することができます。

- (3) つぎのいずれかに該当する場合には発表をお断りしますから、ご注意下さい。
  - i) 講演要旨に記述された内容が本研究発表会の趣旨に合致すると認められない場合
  - ii) 発表者の資格が、所属主催学・協会の規定または慣例に合致しない場合
  - iii) 期日までに講演要旨原稿が提出されなかった場合

## 日本建築学会賞について

日本建築学会では日本建築学会賞を募集しております。詳細については直接日本建築学会へお問合せ下さい。

日本建築学会：東京都中央区銀座西 3-1

北海道支部行事案内 (札幌市南一条西2丁目 勸銀ビル5階)  
電話 札幌 25-2211 内線 252

(1) 第3回講演会

◀ 12月16日(金) 13.20~ ▶

講演題目および講師:

- |                           |                       |
|---------------------------|-----------------------|
| ① 北緯 50 度~60 度の間で世界を一回りして | 北海道開発審議会特別委員 小川 譲 二   |
| ② セントローレンス川の開発について        | 北海道開発局河川工事課長補佐 小田 代 弘 |

(2) 研究発表会

◀ 2月22日(水) ▶

場 所:札幌市民会館

発表件数:35 件;内容は技術資料第 23 号として刊行当日頒布(会員には無料)する。発表題目は次号で公示する。

訂正お詫び:会誌 51 巻 10 号 12 ページおよび 11 号 11 ページの「5. 申込み……」とありますのは誤植につき謹んで訂正します。参加費は無料、聴講は自由ですので念のためお知らせします。

(3) 講習会

◀ 3月8日(水) ▶

場 所:札幌市民会館

講習科目:講師(予定)(詳細の日程は次号で公示する)

- |                           |                   |
|---------------------------|-------------------|
| ① コンクリートの設計施工上の 2, 3 の問題点 | 北海道開発局土木試験所 林 正 道 |
| ② 異形鉄筋使用上の 2, 3 の問題点      | 北海道大学工学部 藤 田 嘉 夫  |
| ③ 構造物の震動について              | 北海道大学工学部 芳 村 仁    |
| ④ 最近の基礎工法(主として施工問題)       | 未 定               |
| ⑤ 過水土の土工上の問題点             | 土 谷 光 信           |

東北支部行事案内(仙台市北三番丁 124 建設省東北地方建設局企画室内)  
電 仙台 25-2171

昭和 41 年度研究発表会

◀ 2月21日(火) 9.00~16.30 ▶

場 所:宮城県民会館(仙台市定禅寺通櫓丁 48) プログラム, 講演概要は, 当日会場にてさしあげます(無料)。

研究発表会に発表ご希望の方は, つぎの発表申込要領により, 1867 年 1 月 10 日(火)までにお申込み下さい。希望多数の場合は, 締め切らせていただきますのでご了承下さい。

研究発表会発表申込要領

- (1) 発表申込方法:発表希望者は, 部門, 題目, 勤務先, 会員種別, 学位, 氏名(連名の場合は発表者に○印をつける), 卒業学校名および年次, 座談会参加の有無, 連絡先を明記のうえ, 1967 年 1 月 10 日(火)までに土木学会東北支部へ提出して下さい。なお発表者には記念品をさしあげます。
- (2) 講演内容:土木技術論文, 工事報告文等土木技術に関する内容をもつもので, 原則として1人1題にかぎります。
- (3) 講演部門:今回より, つぎの2部門において実施し, 発表題数は, それぞれ 16 題, 計 32 題を予定しています。  
第1部門:水理・水文・河川・港湾・海岸・発電水力・衛生工学等, 水に関するもの  
第2部門:構造・橋梁・コンクリート・土質・土木材料・建設機械・鉄道・道路・都市計画・測量等, 構造に類するもの
- (4) 原稿提出要領:発表申込者は, つぎの要領で原稿を提出していただきます。  
① 講演概要は, 発表者の原稿をそのまま縮写してオフセット印刷としますから必ず所定の用紙をご使用下さい。  
② 用紙は原稿の書き方とともに発表申込者に東北支部からお渡しします。  
③ 原稿は, 1967 年 1 月 25 日(水)(期限厳守)までに東北支部へ必着するようお送り下さい。  
④ 原稿の長さは1題目について4ページ(図, 表, 写真とも)を原則とします。
- (5) 座談会:発表会終了後, 発表内容等をめぐって発表者, 東北支部有志で座談会を持ち簡単な夕食をさしあげる計画がございますので発表申込のさい参加の有無をご連絡下さい。

関西支部行事案内 (大阪市東成区中道元町1丁目149番地  
電話 大阪 (06) 981-2510 振替口座 大阪 82599 番)

(1) 海外事情講演会

◀ 1月18日(水) 14.30~17.00 ▶

1. 場 所: 好文倶楽部集会室 電 大阪 (06) 361-1261 番 大阪市北区梅田 2 第一生命ビル 12 階 国鉄大阪駅前

2. 題目と講師:

14.30~14.40	開会の挨拶	土木学会関西支部長	小 西 一 郎
14.40~15.20	① 最近の長大橋梁について	京都大学教授 工博	小 西 一 郎
15.20~16.00	② 交通事故防止対策と道路状況 (英国の対策と関連して)	大阪府警察本部交通部長 警視長	竹 岡 勝 美
16.10~16.50	③ 海外工事の問題点	(株)大林組土木部工務部長	平 田 昌 三
16.50~16.55	閉会の挨拶	土木学会関西支部幹事長	伊 藤 富 雄

3. 聴 講: 無料, 来聴歓迎

(お願い) 各職場班では参加予定人員を1月11日(水)までにハガキまたは電話にて土木学会関西支部までご一報をお願いいたします。

この講演会終了後別掲のとおり会員懇親会を催しますから多数ご参加下さい。

(2) 会員懇親会

◀ 1月18日(水) ▶

1. 日 時: 1967年1月18日(水) 17時頃の予定 (海外事情講演会終了後)

2. 場 所: 好文倶楽部会議室 電 大阪 (06) 361-1261 番 大阪市北区梅田 2 第一生命ビル 12 階 国鉄大阪駅前

3. 参加費: 500円

4. 申込期限: 1967年1月11日(水)

5. 申込方法: 参加希望者は勤務先, 連絡先, および氏名を明記のうえ参加費500円を添えて1月11日(水)までに土木学会関西支部へお申し込み下さい。参加証をお送りします。

(3) 大阪都市計画講演会

◀ 1月24日(火) 13.00~17.00 ▶

1. 場 所: 大阪科学技術センター401号室 電 大阪 (06) 443-5321 番

大阪西区靱1丁目118番地 (地下鉄3号線信濃橋駅下車北へ150m靱公園北東角)

2. 題目と講師:

13.00~13.10	開会の挨拶	土木学会関西支部長	小 西 一 郎
13.10~13.50	① 大阪市のマスタープランについて	大阪市総合計画局計画部長	大 塚 清
13.50~14.30	② 街路のOD調査の結果と街路の高能率化について	大阪市総合計画局築港深江線建設室長	寺 田 久 弥
14.30~15.10	③ 街路事業とその問題点	大阪市総合計画局築港深江線建設室主幹	尾 山 一 郎
15.20~16.00	④ 大阪府下における流通業務市街地の整備について	大阪府土木部計画課長	石 橋 金 一 郎
16.00~16.40	⑤ 阪神高速道路の延伸計画について	阪神高速道路公団計画部第一課長	北 村 正 也
16.40~16.50	閉会の挨拶	土木学会関西支部幹事長	伊 藤 富 雄

3. 定 員: 150名

4. 聴 講: 無料, 来聴歓迎

(お願い) 各職場班では参加予定人員を1月17日(火)までにハガキまたは電話にて土木学会関西支部までご一報下さい。

(4) 耐震設計に関する講習会

◀ 2月21日(火)~22日(水) ▶

共 催: 日本材料学会・日本材料学会関西支部・土木学会関西支部・土質工学会関西支部・日本建築学会近畿支部

1. 場 所: 大阪科学技術センター8階大ホール 電 大阪 (06) 443-5321 番

大阪市西区靱1丁目118番地 (地下鉄3号線信濃橋駅下車北へ150m靱公園北東角)

2. 題目と講師:

第1日(2月21日)

10.00~11.00	① 耐震設計理論	日本材料学会事業委員長	河 合 弘 迪
		京大工 教授	小 堀 鉄 二

# 会 告

11.00~12.00	② 基礎の動的性質と耐震性	京大工 教授 赤 井 浩 一
13.00~14.00	③ コンクリート構造物の耐震性	京大工 教授 六 車 照
14.00~15.00	④ 鋼構造物の耐震性	京大工 教授 金 多 潔
15.00~16.00	⑤ 土木構造物耐震設計	京大工 教授 後 藤 尚 男
第2日(2月22日)		
10.00~11.00	⑥ 高層建築の耐震設計	京大防災研 教授 南 井 良一郎
11.00~12.00	⑦ 長大橋梁の耐震設計	京大工 助教授 山 田 善 一
13.00~14.00	⑧ 原子炉とその配管系の耐震設計	東大生研 助教授 柴 田 馨
14.00~15.00	⑨ 震害の実例と教訓	八千代エンジニアリングKK 小 寺 重 郎
映 画		
15.00~16.00	高層建築と長大橋梁に関する映画 閉会の挨拶	日本材料学会関西支部長 奥 島 正 一

3. 定 員 : 300 名

4. 参 加 費 : 共催学会会員 3 000 円 (テキスト代を含む)  
非 会 員 4 000 円 (テキスト代を含む)

5. 申 込 期 限 : 1967 年 2 月 10 日 (金)

6. 申 込 方 法 : 参加希望者は勤務先、連絡先、氏名および所属学会名を明記し参加費を添えて 2 月 10 日 (金) までは下記申込先へお申し込み下さい。なおテキストのみご希望の方は 1 部 1 500 円にて頒布いたします (ただし発送は講習会終了後)。

申 込 先 : 日本材料学会講習会係 電 京都 (075) 76-5321 番  
京都市左京区吉田泉殿町 1 の 101 振替口座 京 都 26625 番

## (附) テキスト頒布について

最近の交通問題とその対策	頒 価	400 円	送 料	80 円
道 路 工 学	"	500 円	"	80 円残部僅少
衛 生 工 学	"	300 円	"	80 円 "
都 市 環 境 衛 生	"	450 円	"	80 円
土木構造物の振動と安全性	"	1 000 円	"	80 円

上記テキストご希望の方は頒価に送料を添えて土木学会関西支部 (振替口座利用) へお申し込み下さい。

## シェル構造の発達についての講演会

◀ 2 月 3 日 (金) ▶

W. Flügge 博士は、アメリカのスタンフォード大学の Department of Engineering Mechanics の教授でシェル構造理論に関する開拓者の一人として現在顕著な活躍をされている世界的な学者であります。

今回の来日を機に、シェル構造に関する講演をお願いすることになりました。シェル構造の理論は、応用力学の重要な部内として発展しており、航空機体、船舶、圧力容器、大スパン屋根構造等に広い応用面をもっております。第一人者としての氏の講演はシェル構造に関心をもたれる研究者、技術者にご満足のゆくものと確信しておりますので多数のご来聴下さいますようご案内申し上げます。

共 催 : 日本鋼構造協会・日本建築学会・土木学会・造船協会・日本航空学会

1. 日 時 : 1967 年 2 月 3 日 (金) 14.00~16.00
2. 場 所 : 東京商工会議所ホール (馬場先門)
3. 演 題 : シェル構造の発表について
4. 講 師 : アメリカ・スタンフォード大学教授 W. Flügge 博士
5. 通 訳 : 建設省土木研究所 大久保忠良